



強度行動障害支援者養成研修 (基礎研修) 「実践事例報告 障害特性に配慮した環境の設定」

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会

清瀬育成園ひだまりの里きよせ

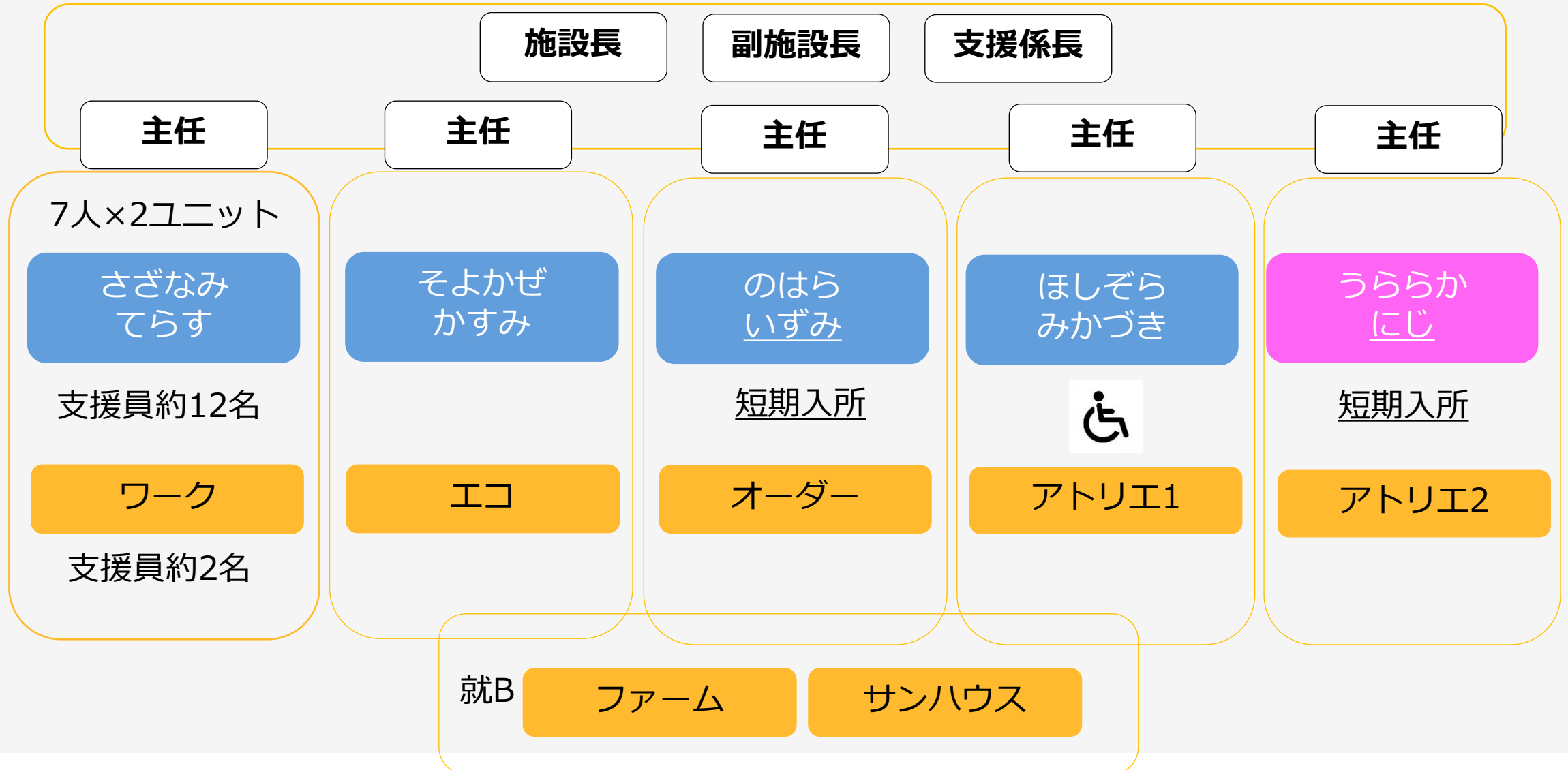
寺田 昌洋

ひだまりの里きよせの紹介（外観）

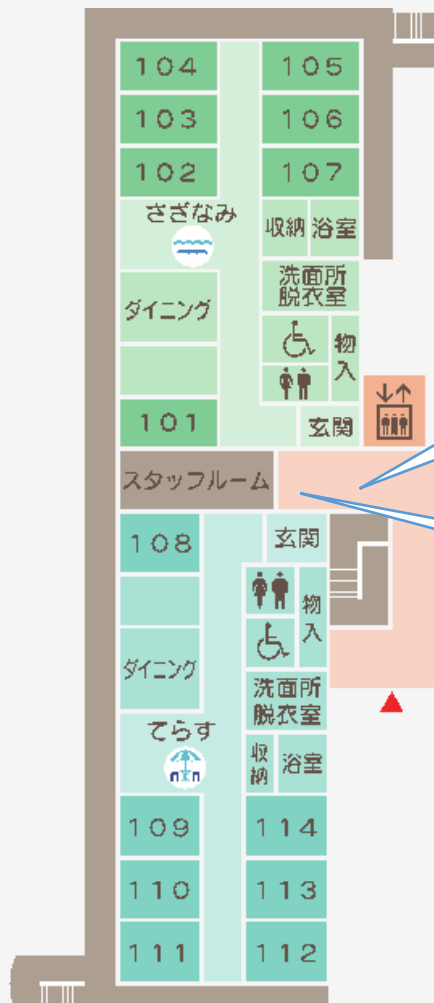


ひだまりの里きよせ 組織図

職員合計：約100名
(常勤約80名、非常勤約20名)



ひだまりの里きよせ ユニット紹介



利用者生活スペース紹介
101～112号室 7名×2ユニット 計14名
全10ユニット

ユニット同士を隔てて、スタッフルームを設置

事例利用者紹介



Tさんについて

プロフィール

年齢	27歳	障害支援区分	6
性別	男性	障害者手帳	2度
コミュニケーション	拒否をする際には「んー」と言った声出しあり 文脈に沿った声掛けはある程度理解している様子 遅延性エコーリア		
好きなこと	散歩、ポテトチップス、炭酸飲料、お茶、言葉遊び		
課題となる行動	他傷行為（頭突き、殴打など）、 自傷行為（壁に頭部を打ち付ける、額を拳で叩く）、 破壊行為、異食		

ひだまりの里きよせとTさんのこれまで歩み

ひだまりの里移行前

ホールのような広々とした空間が主な生活・活動スペース。10人ほどの人と一緒に生活。マンツーマン対応。他傷、自傷行為の表出は付き添う支援者によって増減がある印象だった。

2017年 ひだまりの里きよせへ入所

Tさん含め7人の居住者とユニットで生活。視覚的な刺激を調整した日中活動場面では比較的落ち着いて過ごすことができていたものの、余暇時間や、夜間等ユニットにいる場面で課題となる行動が多く表出していた。

2020年 ユニット異動

所属ユニットの環境がTさんの特性とミスマッチを起こしていると判断。ユニットを変更し、大きく生活環境を変える

2022年 コンサルタントに支援相談開始

Tさんにとってよりよい環境、生活を目指しコンサルタントに本格的に支援を相談。居住スペースでの試行錯誤を繰り返す。同年、GHの見学、体験利用を実施。現在に至る。

行動上の問題を整理する



主に支援介入をした課題となる行動

・他傷行為

職員や他利用者に頭突きをする、叩く、蹴る等

・自傷行為

壁に頭部を打ち付ける。額を拳で叩く等

ユニット内での不穏な様子



A hand-drawn style outline of an iceberg, with a small peak above a horizontal red line representing the water surface. The text is centered within the submerged part of the iceberg.

行動上の問題を 冰山モデルで考える

行動上の問題

特性

相互作用・ミスマッチ

その人を取り巻く環境
環境(物・人)

他傷行為、自傷行為

推測されるTさんの特性

- ・視覚的な刺激に敏感
- ・細部が気になり違いに敏感
- ・先の予測をすることが難しい
- ・話し言葉の理解が難しい
- ・今やる事を自分で判断することが難しい

相互作用・ミスマッチ

周囲の環境

- ・居室前が玄関であることから他利用者や職員の行き来が多い
- ・散歩や活動の時間を直前に口頭で伝えている
- ・手持ち無沙汰な時間が長く今何をするべきか分かりづらい

特性から支援を考える



特性から考える支援のアイデア・方向性

- ・視覚の過敏性

- 苦手な刺激を少なくするための場所の配慮をする

- ・細部が気になり違いに敏感／先の予測をすることが難しい

- はじまりや終わりを分かりやすいようにする

- ・話し言葉の理解が難しい

- 本人が理解できる見える情報を用いる(具体物・シンボルなど)

Tさんの強みを考える

○得意な作業がある

始め方や終わり方、量が明確な作業であれば集中して取り組むことが出来る。

○体力がある。散歩が好き

散歩中は落ち着いていることが多く、長距離のウォーキングが可能

○食えることが好き

おやつや食事が活動の動機になりやすい

○視覚優位である

視覚的に配慮された環境であれば自立した動きが期待できる。

映像作品に注目して過ごすことが出来る。

実際に行った取り組み



取り組み① (2020～2022)

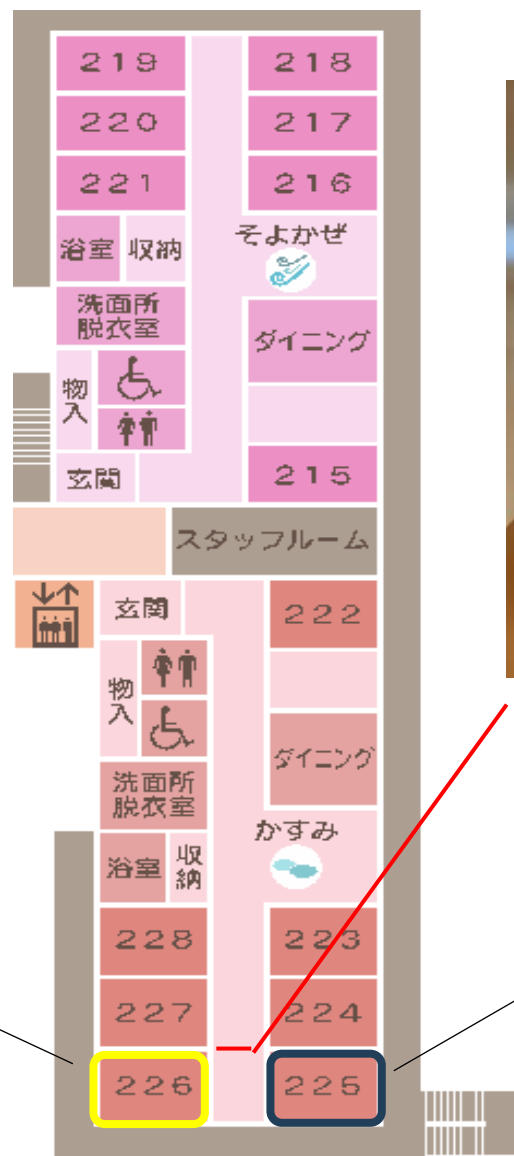
物理的な環境を大きく変更

- ・所属ユニットを変更し、改めて環境調整を図った
- ・居室前にパーテーションを設置 — 苦手な刺激を少なくする配慮
- ・余暇時間に過ごす部屋と寝室を分ける — 何をする場所なのかを明示化
- ・余暇時間には作業課題やDVD観賞の機会を提供
— 得意な作業や、注目できる活動の提供

ユニット変更後の環境



余暇時間を過ごす部屋

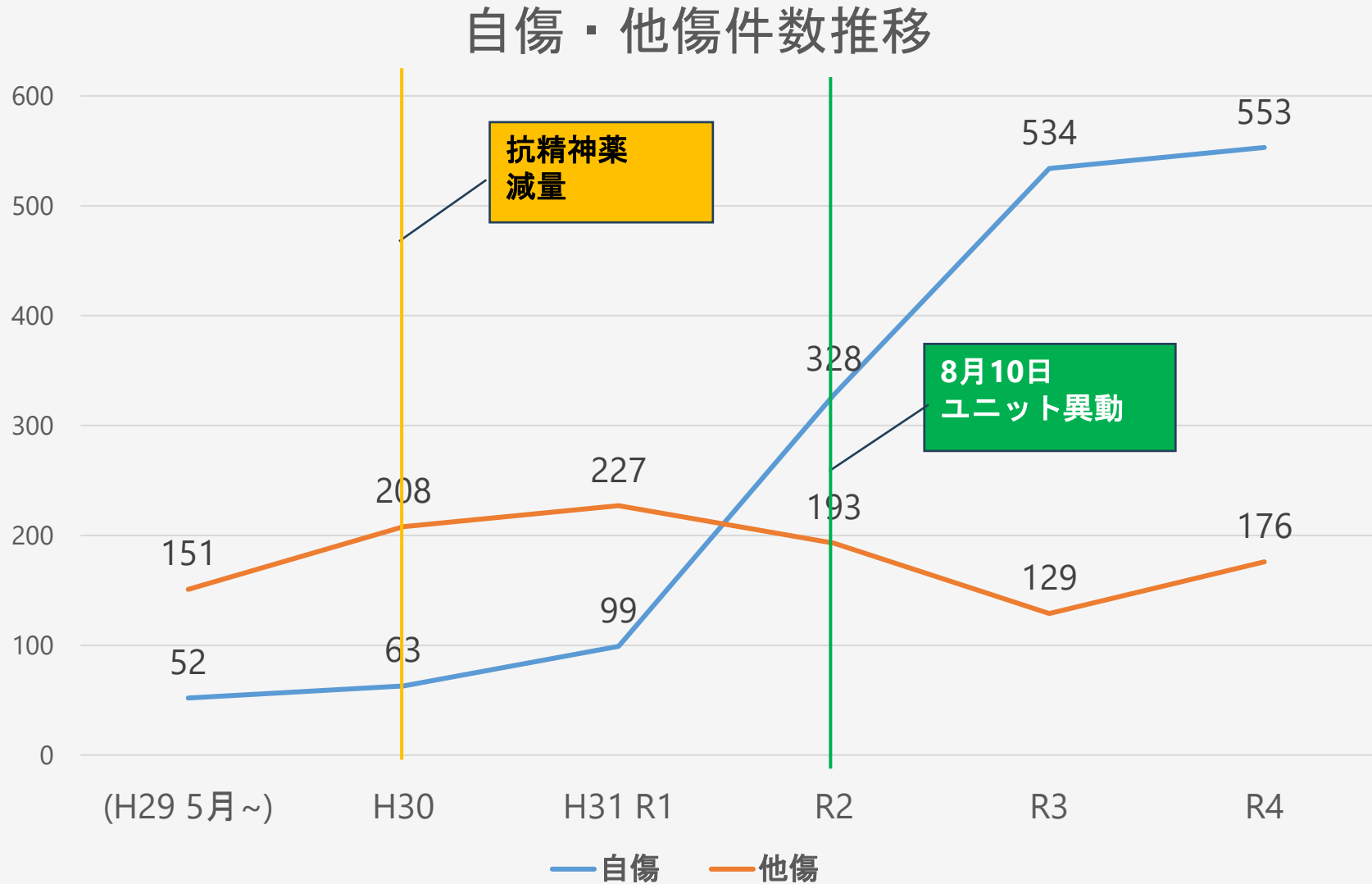


本人の過ごすスペース付近に設置したパーテーション



寝室

取り組み①結果



取り組み① 評価・考察

○物理的な調整により他傷行為の件数は一時的に減少した

●自傷行為の大幅な増加

考えられる主な原因

見通しの持てなさ

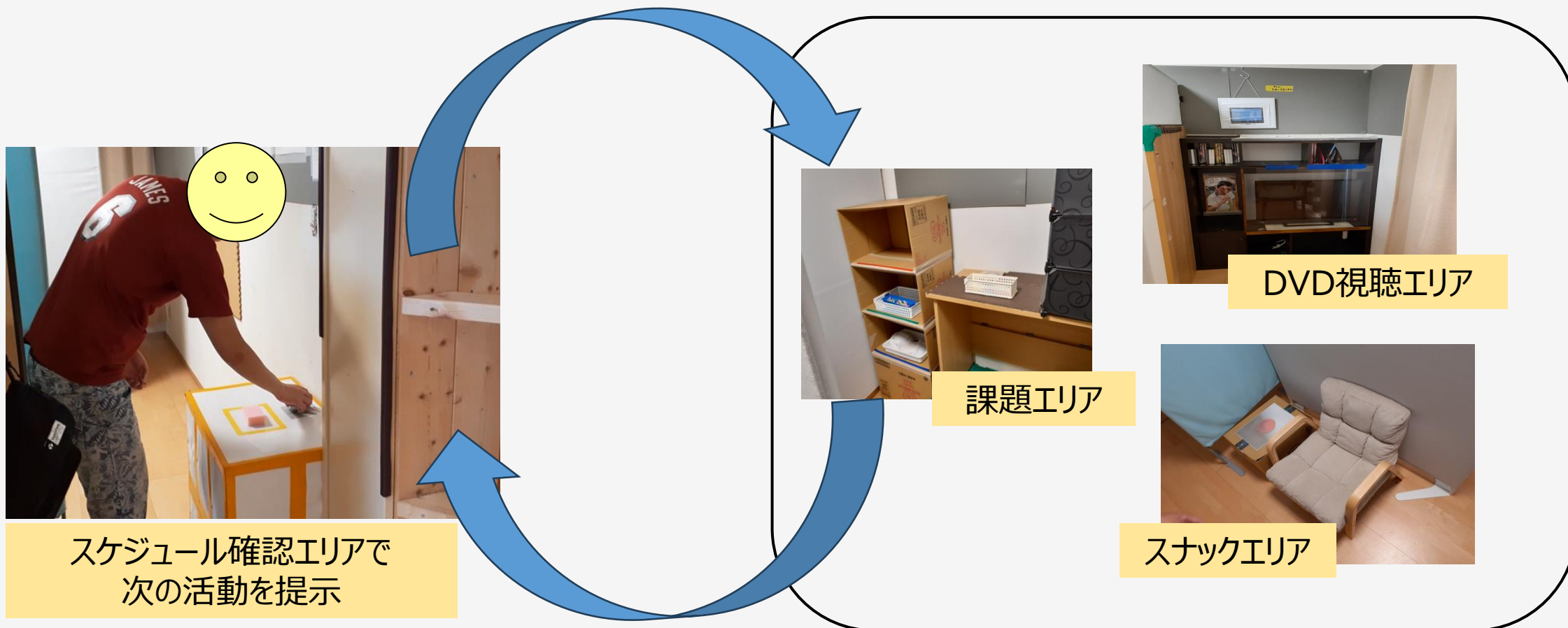
提供される活動自体に納得がいていない(作業種等活動レパートリーの少なさ)

取り組み② (2022.4～)

余暇時間に過ごす部屋を再度環境調整

- 室内にスケジュール確認エリア(次の活動が示され切り替えを行う)を設置
一次に行う事を確認できるように
- 室内を、課題エリア、スナックエリア、DVD視聴エリア等に細分化
一どこで何をするかさらに理解しやすいように
- 支援手順書を作成、掲示
一人的環境調整。統一した動きを取ることで、細部の違いによる躓きの軽減を図った。

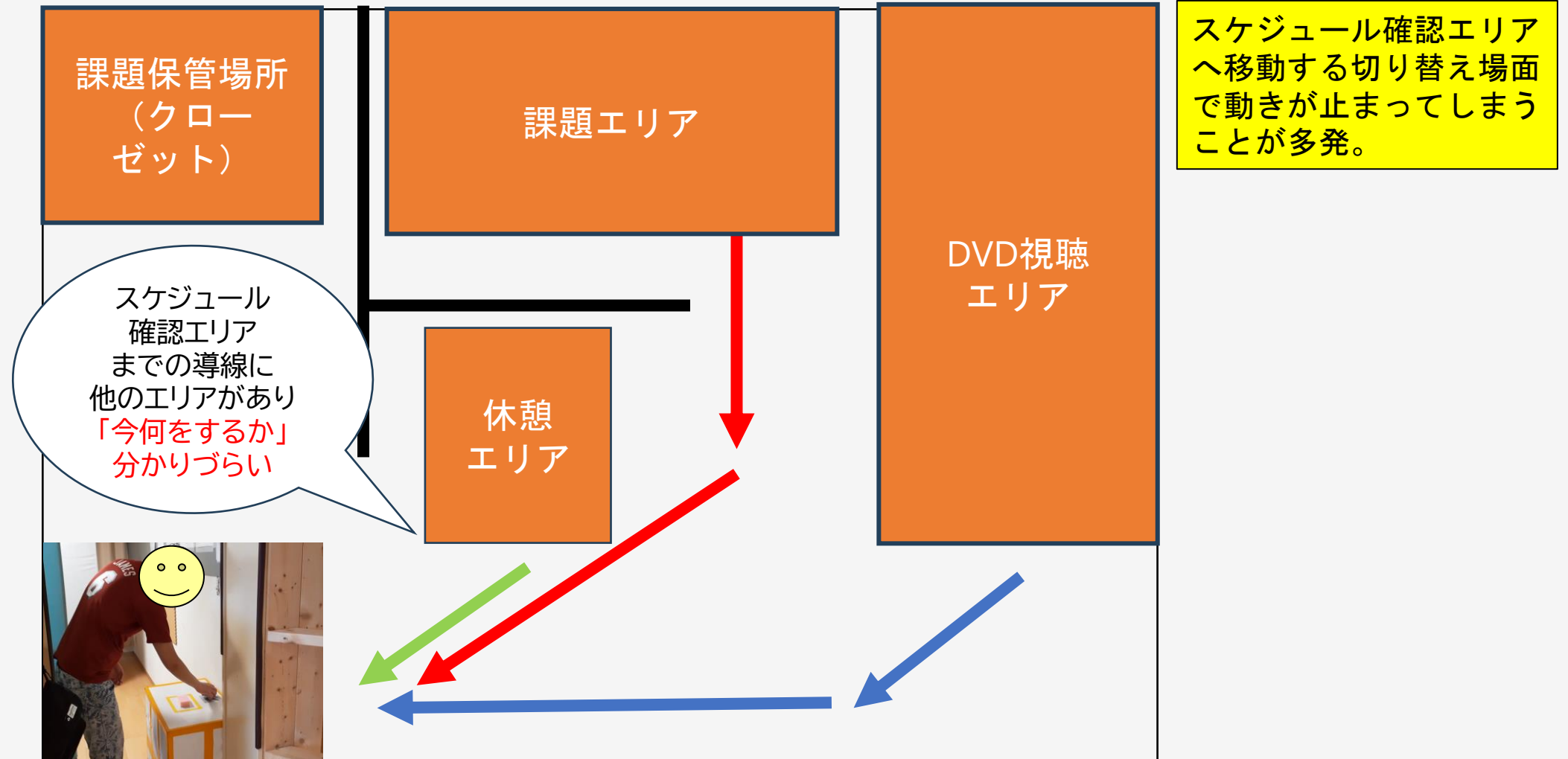
構造化した余暇を過ごす部屋



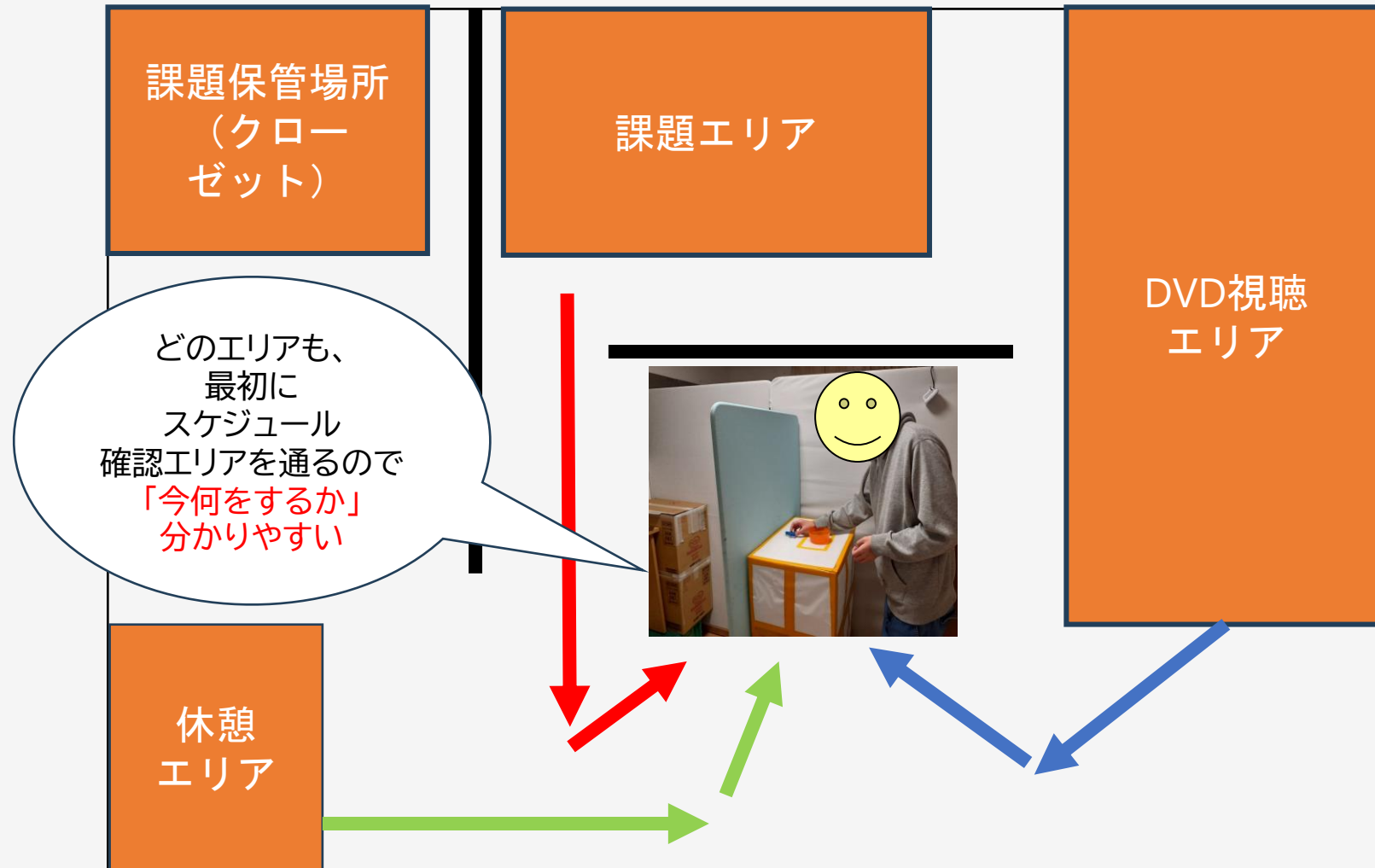
提示する活動・具体物スケジュールの例

活動		具体物
DVD鑑賞	→	DVDケース
作業	→	お手玉(白)
スナック	→	お皿
トイレ	→	スポンジ
日中活動	→	バック
入浴	→	タオル

本人の様子・動きに合わせ再構造化



本人の様子・動きに合わせ再構造化



行った支援の評価

			さん		評価シート
日付	時間	自傷行為	情緒	行動停止	特記
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	
/	:	有・無	良・普通・悪	有・無	

■回数比（評価期間2週間）

再構造化前
20回

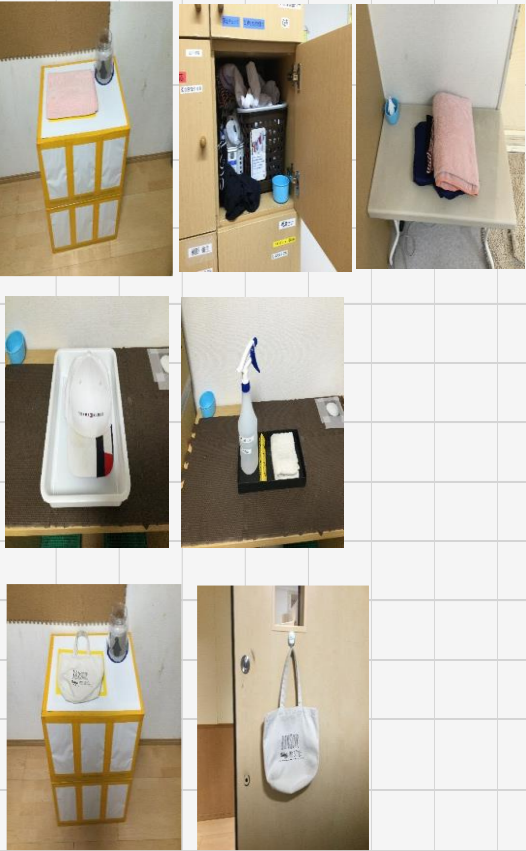
再構造化後
1回

支援手順書

さん自立課題支援手順書				令和4年12月
作成：池尻 作成補助：佐藤大				
時間	場面	本人の動き	支援員の動き	備考
ユニット内で過ごす時間 (7:00～17:40)	自立課題			
	自立課題	ペンギンを受け取り、予定確認。自立課題の具体物(お手玉)を受け取る。お手玉マッチング後、自立課題に取り組む。	トランジションエリア具体物(ペンギン)を提示する。その際、トランジションエリアに自立課題の具体物(お手玉)をセットしておく。	事前に自立課題を3種セットしておく。
	自立課題後	3種の自立課題をフィニッシュボックスに入れる。ペンギンを受け取り、トランジションエリアに行く。	自立課題後の場面のみ、トランジションエリアの具体物(ペンギン)をセットせず、トランジションエリアに強化子の具体物(お皿)をセット	自立課題実施中にトランジションエリアに強化子のお皿をセットしておく。
	強化子	強化子の皿を受け取り、休憩エリアに移動する。椅子に座り好子を食べる。	休憩エリアに座り、お皿をマッチングしたところで好子を提供する。	強化子を1つ提供する。 ※強化子は自立課題部屋クローゼット内にあります。
	強化子→DVD	強化子の皿をフィニッシュボックスに入れる。DVDを選択する。	強化子の皿をフィニッシュする見守り。 ※DVDを3種類提示し、選んでもらう。選択したDVDは支援員が再生する。	※タイマーを6分にセットする。
	DVD→予定確認	DVDを視聴する。タイマーが鳴ったらペンギンを受け取りトランジションエリアに移動する。	※5分ごとに絵カードを1枚剥がす。タイマーが鳴ったら、トランジションエリアの具体物(ペンギン)をセットする。	トランジションエリアにはトイレの具体物(スポンジ)をセットしておく。
	トイレ	具体物(スポンジ)を受け取り、トイレに行く。排泄後、トイレ内にセットされたペンギンを受け取り、トランジションエリアに行く	次場面で提示するトランジションエリアの具体物(ペンギン)を持ち、トイレに付き添う。排泄中に、トイレタンク上に、トランジションエリア(ペンギン)の具体物をセットする。セット後、自立課題部屋に戻り、トランジションエリアに次の具体物をセットする。	情緒が安定している様子であれば、トイレからの戻りの移動は自立課題部屋前から見守る程度で可。
	食事			
	自立課題→食事	3種の自立課題をフィニッシュボックスに入れる。ペンギンを受け取り、トランジションエリアに行く。	自立課題3種を平積みで用意する。	自立課題誘導後にトランジションエリアに食事の具体物(スプーン)をセットしておく。
	食事	スプーンを持って食堂に行く。スプーンをマッチングする。食事を開始する。	スプーンのマッチングを見守る。 服薬支援、食事支援。	歯磨き、自立課題を提供する。
	下膳	自立課題実施後、台車下膳の手伝いをする。下膳後ペンギンを受け取り、トランジションエリアに向かう。	※自立課題実施中、玄関倉庫にトランジションエリアの具体物(ペンギン)をセットしておく。	※手すり拭き支援は自立課題として提供。 閉鎖中など実施出来ない日もあるため、課題の一種として提供できる位置づけとする。

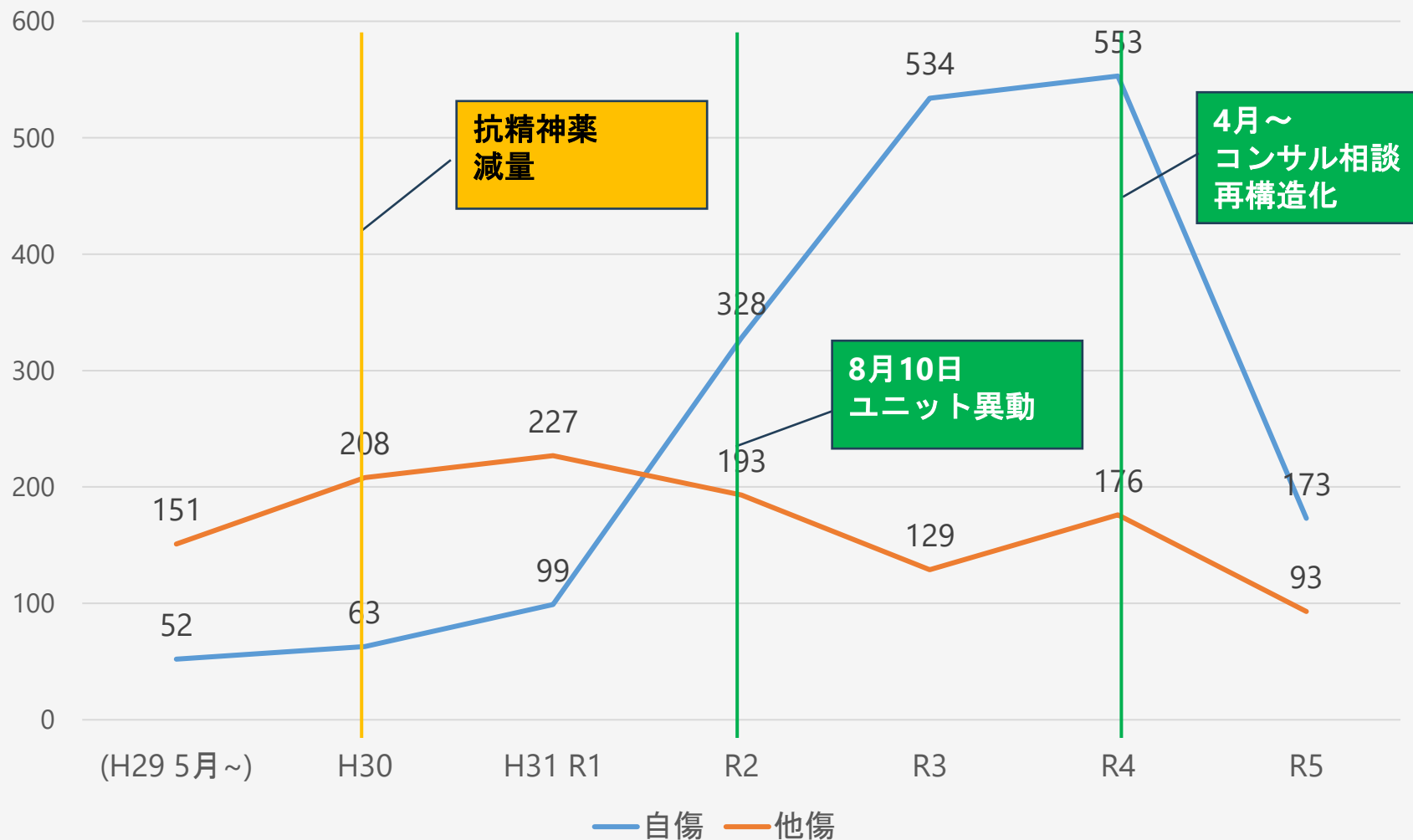


さん自立課題支援手順書				令和4年12月
作成：池尻 作成補助：佐藤大				
時間	場面	本人の動き	支援員の動き	備考
ユニット内で過ごす時間 (7:00～17:40)	トイレ			
	トイレ	具体物(スポンジ)を受け取り、居室入口でマッチング。その後トイレへ。排泄後、トイレ内にセットされたペンギンを受け取り、トランジションエリアに行く	トランジションエリアの具体物(ペンギン)を持ち、トイレに付き添う。排泄中に、トイレタンク上に、トランジションエリア(ペンギン)の具体物をセットする。セット後、自立課題部屋に戻り、トランジションエリアに次の具体物をセットする。	居室は施設する。
	お風呂			
	お風呂	具体物(バスタオル)を受け取り、脱衣場に行く。入浴。入浴後ペンギンを受け取りトランジションエリアに行く。	湯中にトランジションエリア具体物(ペンギン)をセットしておく。 ※トランジションエリアの次の具体物をセットする。	入浴後の微妙な空き時間(5～10分)はお茶提供(緑のコップ)やトイレ誘導(スポンジ)で時間調整を行って下さい。
	散歩・手すり拭き・日用品補充			
	自立課題→各活動	自立課題に取り組む。 平積み3段目にセットされた各活動に取り組む。	自立課題部屋に戻り、トランジションエリアに具体物(お皿)をセットする。	以降通常の自立課題と同様。
	活動			
	活動	活動の具体物(トートバッグ)を受け取り、エコ活動に向かう。	エコ室に同行し、活動に付き添う。	エコバックは、エコ室入口に掛ける。
	活動後	トートバッグを持ちユニットに戻る。トートバッグを自立課題部屋入口でマッチングする。マッチング後ペンギンを受け取り、トランジションエリアに移動する。	トートバッグマッチング中に次の具体物をセットする。 マッチング後、トランジションエリア具体物(ペンギン)を提示する。	



取り組み②結果

自傷・他傷件数推移



まとめ

表れた行動に対処していくのではなく、なぜそのような行動が表出してしまうのかの背景を考え、支援を準備し、実践していくことで当人と支援員の「困り感」が減少した。

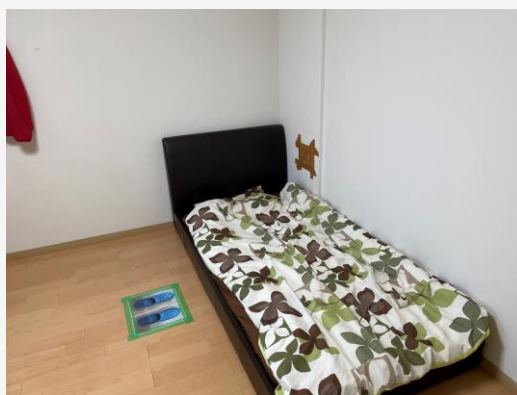
「課題となる行動の減少」は一つの評価軸ではあるが、最も重要なことはTさんの生活の質の向上である。そのためにはその人ひとりひとりに合わせた構造化を検討していくことが重要だと考える。

今後の展望

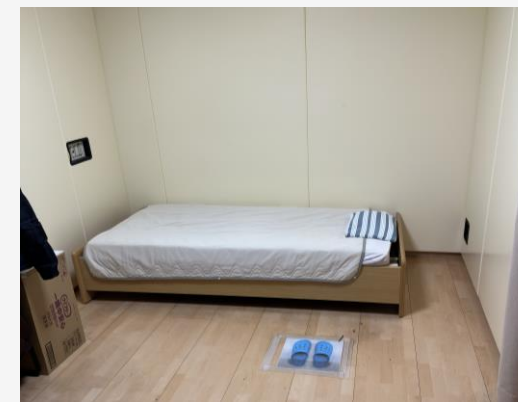
現在Tさんはグループホームへの異動を見据え、ショートステイや生活介護事業所の体験を行っている。体験先の職員にひだまりの里での生活環境を見学していただき、似た環境を整えてもらうことで落ち着いて実施することができた。

今後もTさんが心地よいと思える環境を検討し、引き継いでいくことで、入所施設から地域への移行を目指していく。

GHの部屋



ひだまりの里の部屋



ありがとうございました



社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会

清瀬育成園ひだまりの里きよせ

寺田 昌洋